

2016年度気象教育懇談会実施報告

教育と普及委員会

教育と普及委員会は、学校教育における気象学・大気科学の充実促進を活動目標のひとつとして掲げている。これまで、不定期ではあるが春季大会に合わせ、学校教員を中心に気象教育懇談会として話題提供や気象教育の課題検討を実施してきた。その際に、「気象が専門ではないが、教えなくてはならない先生方」が多数いて、各自がどう教えて良いか悩んでいることが話題となった。そこで、気象教育懇談会の内容を一新し、指導上の要点などの具体的な解説や助言に取り組むこととした。

今回、その一環として次のとおり実施したので、報告する。

1. 概要

開催日時及び場所

2017年1月8日(日)13時～17時、
日本気象協会会議室(東京都豊島区)

プログラム

天気図の描き方・読み方 講義及び実習

日本の降雪のメカニズム 講義

やさしく学ぶ気象 講義

気象予報現場見学

気象実験

参加者

中学校・高等学校教師 30名(中学校22名,
中学・高校3名,高校5名)

2. 実施状況

平松委員長の開催挨拶を皮切りに、プログラムを進めた。

まず、「天気図の描き方・読み方」では、ラジオ天気図の作成について指導した。一部のデータを書き入れた天気図を完成させる形とした。等圧線の引き方は経験差が見られ補助が必要な受講者も見受けられた。

次に、「日本の降雪のメカニズム」では、現役気象キャスターである岩谷忠幸委員が、日本列島での雪の降り方、特に太平洋側と日本海側の降雪の違いについて講義した(第1図)。

「やさしく学ぶ気象」では、受講者が中高生の特別

授業で実際に使用する気象クイズを披露し合って参加者で解き合い、それを元に、生徒が理解しにくいところ、教員が教えにくいところについて意見交換などを行った。

その後、参加者を2グループに分け、日本気象協会の予報現場の見学と、ペットボトルを使った雲の発生や真空容器を使って気圧を感じるなどの簡単な実験の紹介を行った。

3. 成果など

イベント終了直後に行ったアンケート調査結果では、今後も同様の機会があれば参加したい、内容によっては参加したい、とする回答を合わせると100%を占めた。参加者の感想は中学教員と高校教員とで違いが見られるものの、全体として好評であった。次回以降の開催テーマとして最も希望が多かったものは、「気象教育の教材作成」、その次は「最新観測技術」であり、教室で生徒に直接還元できる項目が上位を占めた。

関東地方の降雪についての講義では、当日が雨模様の天気であったこともあり、皆、熱心に聞き入っていた。また、気象実験の紹介では、器具を安価に手に入れる方法について、熱心なやりとりがあった。このような交流の機会を持つことは、気象に対する理解を深めるうえでも意味があると考えられ、今後も同様の講



第1図 岩谷委員の講義を聞く参加者。

習会を続けていくこととした。

今回の参加者は全員が非学会員であり、気象学会の行事には初めての参加者がほとんどであった。今回の催しを知ったきっかけは、友人・知人からの口コミが最も多く、学校に送られたメール、各種MLがそれに次いでいた。

対象者へのイベント開催告知は最も大きな課題であ

る。アンケート調査結果においても、このような催しの開催を知る機会が少ない、という意見が複数あった。開催告知方法について工夫を重ね、より多くの悩める教師の参加促進を図りたい。

最後に、今回の会場の提供と見学会開催に協力いただいた日本気象協会に感謝申し上げます。